



全日本製造業コマ大戦

「ものづくり・匠の技の祭典 **2022** 場所」

高校生大会

観戦報告

東京国際フォーラムを会場として、**8.5(金)～7(日)**の日程で「匠の技の祭典 **2022**」が開催されました。都立工業高校も参加し、若者向けイベントで「コマ大戦」も行われるとの情報を得ました。

まだ見たことのない競技、一体どんな対戦なのか、簡単な報告ですが、楽しさと奥行きが伝われば幸いです。

都立工業高校の出展



対戦時間前に、会場である国際フォーラムに到着できたので、まず、都立高校のブースを見学しました。

ここでは、
①サンドブラスト体験、
②彫刻機によるキーホルダーづくり の2種類の体験が用意されていました。

左の写真は、サンドブラスト体験参加者の方々です。

手前の神輿は、田無工業高校建築科の作品。透かし彫りも施され、見事な作品となっています。



自動車は、エコランカー、1リッターのガソリンで何km走れるか、燃費性能を競う競技です。使用するエンジンは Honda の50cc。

出展は練馬工業高校のものだけですが、この競技に参加した学校は他にもあります。

競技は、中学生クラスのグループⅠ、高校生クラスのグループⅡ、大学、短大、高専、専門学校クラスのグループⅢと一般のグループⅣ等6つのカテゴリーがあります。

6月18日に開催された「もてぎ大会」では、昭和第一学園高校のチャレンジャーAが1487.686 km/lで5位に入賞しています。



溶接による作品は、蔵前工業高校の作品です。

デザイン系の学科ではなく、機械科の生徒が作ったものです。

題して

「機械科の重い城！？」

廃材を利用したオブジェ製作で、職業訓練法人アマダスクール主催の優秀板金製品技能フェア学生作品の部で『金賞』を受賞した作品です。『ハウルの動く城』をデフォルメした作品に8名の生徒が取り組んだものです。

この他にも都立工業高校の実習作品がたくさん展示されていました。

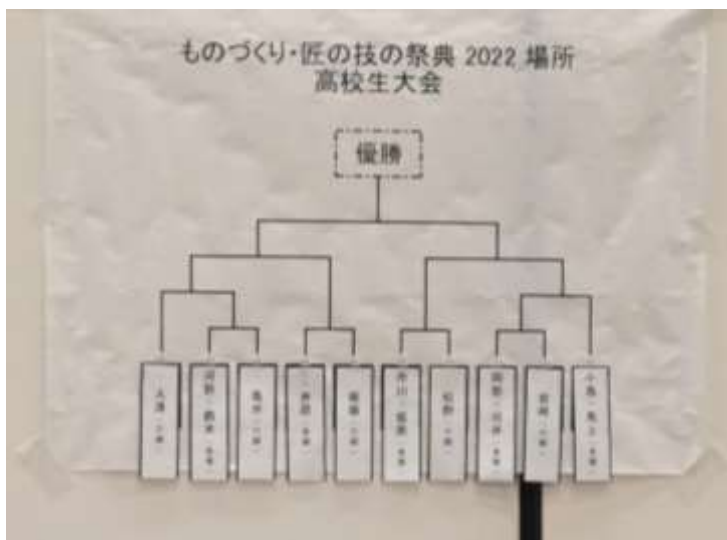


作品の背後にあるポスターには、東京都立杉並工科高等学校とあります。

東京都教育委員会は、Society5.0を支える工業高校の実現に向け、Next kogyo START Projectの取組を進めており、その一つとして、令和5年4月から「工業高等学校」15校を、先進的で魅力ある専門高校に相応しい名称である「工科高等学校」に変更するための手続きを進めています。

工学と科学を融合し、東京の成長を支える工業高校における教育の充実に取り組んでいます。

コマ大戦



工業高校のブースからコマ大戦のイベントスペースに移動した時刻が開会間際だったのですが、なんとか最後尾の椅子をゲットしました。

コマは、直径 2 cm 以下、全長 6 cm 以下と極めて小さく、最後尾の座席からでは全く見えない距離でしたが、ステージ両側にある大型モニターで、対戦する土俵が映し出されるよう工夫されていました。

参加選手と役員、そして「ステージ盛り上げ隊」のよしもと芸人による対戦前の記念撮影。

参加したのは、

六郷工科高校 5 チームと多摩工業高校 5 チームでした。

参加校がもう少しあるかなと思ったのが、正直な気持ちでした。

コマ大戦の土俵です。

指でコマを回し、盤上で戦わせます。相手を土俵外に弾き飛ばすか、長く回り続ければ、勝ちです。

競技は、2 連勝したコマが勝ち上がるというトーナメント方式です。



対戦者の間にいる方が審判です。

指先でコマを回しながら、土俵に落とすようにして対戦が始まります。

コマはとても小さく、指で回しやすいように軸の部分長くしたり、細くしたりとそれぞれに工夫されています。

相手を弾き飛ばすためのコマ重量や重心の位置など工夫は様々にあるようです。

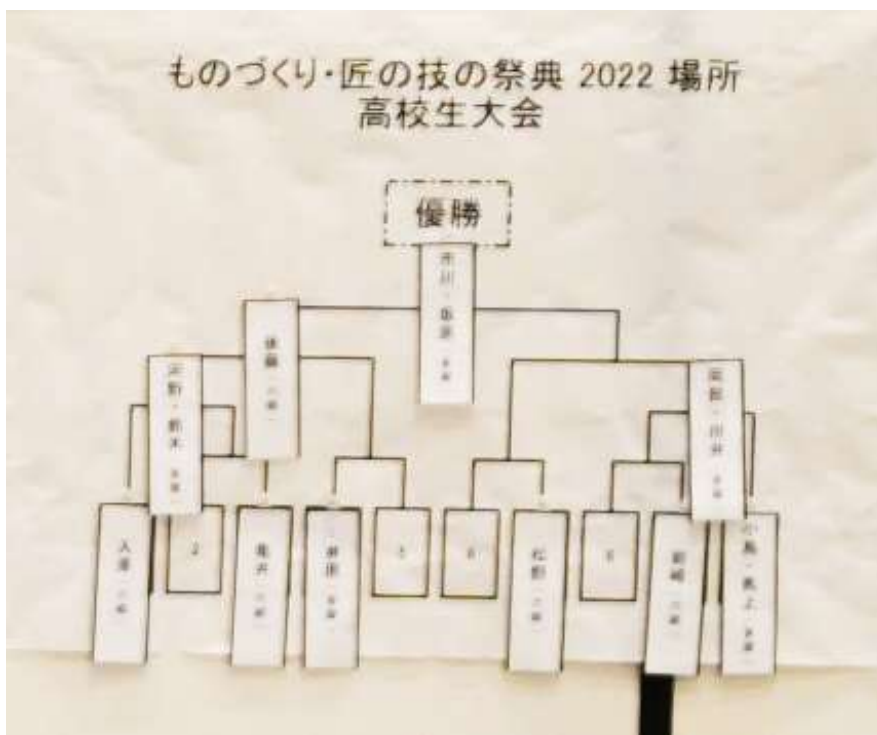
与えられたコマの材料を、どのような考え方で設計し、どれだけ精密に加工できるかが、ポイントのようでした。

与えられた材料は、黄銅とステンレスの2種。加工性の問題からか、どのコマも黄銅製でした。

黄銅は柔らかく、落下したときにコマの軸が曲がることもあるそうです。

競技では、回した途端に場外に落ちてしまうコマもあり、回す技術や2連勝しなければといったメンタルな要素も大きく、対戦者には申し訳ないのですが、観戦しても興味深いものでした。

コマは完成した状態で直径20mm以下というルールがありますが、外周に突起をつけたコマもありました。



表彰式です。

優勝は、多摩工業の生徒
2 位が六郷工科の生徒、
3 位が多摩工業の生徒でし
た。

よしもと芸人は、
ナナナナー の
ジョイマンでした・・・。